横浜みどりアップ計画

地域緑のまちづくり事業

STORY REPORT ※助成金を活用していない活動も含まれています

《青葉台地区（青葉区）》

◉団体名：青葉台ハニービープロジェクト　◉計画名：ミツバチでつなぐ青葉台駅周辺の花と緑と人
◉協定締結期間：令和4～6年度　◉助成額合計：851千円（3か年合計）

ミツバチでつなぐ　青葉台駅周辺の花と緑と人

■地区・団体の概要

青葉区青葉台駅周辺は、美化・緑化への意識が高く、街路樹や公園、まちなかの植栽やプランターが豊かにある緑豊かな地域です。一方で、地域の高齢化が進む中、高齢者のサークルや地域活動は盛んなものの、世代を超えた交流の場が限られているという課題もありました。

こうした背景のもと、「青葉台ハニービープロジェクト」は、地域に花と緑を増やすことを目的に、青葉西部地区の郵便局長10名が事務局となり、地域の皆さんとともに立ち上げた団体です。養蜂をきっかけに、環境教育や地域交流を促進し、青葉台を“楽しいことをしている街”にしたいという思いから活動が始まりました。

■取組の概要

養蜂を始めるにあたり、「ミツバチプロジェクト」を行っていた青葉区役所に相談し、ミツバチを通じた環境教育や地域緑化の可能性についてヒントを得ることができました。

「花や緑を増やしたい」「養蜂をきっかけに、子どもたちに自然の大切さを伝えたい」――そんな思いから、青葉台駅周辺の緑化整備を計画。まずは、青葉台郵便局のフェンス緑化や花壇の整備、青葉台公園への植栽を行いました。

植える花にはミツバチが好む蜜源植物を中心にレンゲやラベンダー、一年草を取り入れるなど、地域の景観を美しく彩るとともに、ミツバチの好む環境づくりを進めました。さらに、ミツバチを身近に感じてもらうための体験型企画も展開。青葉台郵便局の屋上では養蜂体験ツアーを実施し、地域の小学校と連携した「ハチ育」「花育」活動を行いました。

■民有地緑化　ラベンダー満開のコンテナ花壇がミツバチの蜜源に！

2年目に、青葉台郵便局の空き地にラベンダーを中心にブルーベリー、レモンバーム、ペパーミントを植栽したコンテナ花壇を設置しました。緑化スペースを整備し、コンテナは木で制作し、できるだけナチュラルな空間づくりを心掛けました。ラベンダーが一面満開になったときは、ミツバチがたくさん飛んできて、ミツバチにとっても良い蜜源になったと思います。ラベンダーのとても良い香りがして、地域の人たちの癒しの空間にすることもできました。郵便局員と高校生のボランティアが協力してくれるおかげで、大変な水やりなども含めて順調に活動ができています。

青葉台郵便局のスロープ花壇や青葉台公園の花壇には別の助成制度を使い、緑のカーテンやマリーゴールド、ローズマリーなどを植栽し、花緑を増やす取組をしています。

■地域緑化活動　子どもたちや地域の交流につながるワークショップを開催

青葉台小学校の4年生は、毎年、青葉台ハニービープロジェクトのメンバーになってもらっていて、さまざまな活動を提案してもらっています。地域緑のまちづくり事業の助成金を使っていない活動にはなりますが、ミツバチの蜜源になるようにと、発泡スチロールで作ったプランターのワークショップを開催し、花植えを行いました。

令和6年には、青葉区制30周年記念イベントも兼ねて地域のみなさまを招待し、ラベンダー花壇にてラベンダーの花摘み体験などのイベントを開催しました。青葉台郵便局のコンテナ花壇はミツバチの蜜源になるだけでなく、地域のみなさまの交流活動の場にもなっています。

■3か年の取組を振り返って

この3年間、多くの方々のご協力に支えられ、活動を継続することができました。緑化活動は初めての挑戦で、助成金は計画の一部しか使えませんでしたが、計画したことは、実現することができました。

特に印象的だったのは、子どもたちが自然やミツバチに興味を持ち、自ら学び、積極的に参加してくれたことです。彼らの姿は、地域の未来を担う希望そのものであり、活動の意義を改めて実感する瞬間でもありました。

また、郵便局の職員間でも、花や緑、養蜂への関心が高まりました。地域に根ざした活動を通じて、郵便局のイメージアップにもつながったと感じています。

花と緑、そしてミツバチを通じたこの取組は、青葉台の特色として今後も継続していきたいと考えています。

計画の実施箇所図

❶コンテナ花壇のラベンダー

❷郵便局スロープの緑化

ー 活動中・活動後の様子 ー

ハチ育の取組風景

青葉台小学校ワークショップ

郵便局空地緑化のブルーベリー

満開のラベンダー